

観光地域づくり法人形成・確立計画

記入日：令和 7 年 7 月 3 0 日

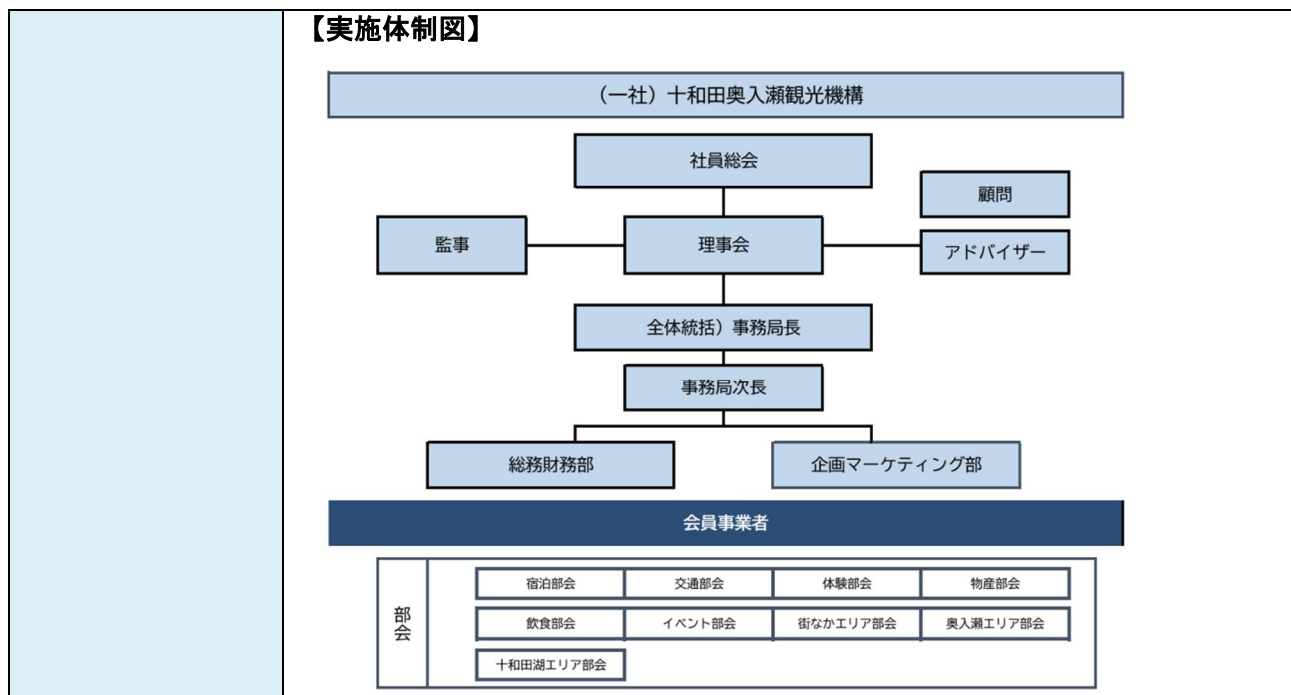
1. 観光地域づくり法人の組織

申請区分 ※該当するものを ○で囲むこと	広域連携DMO・地域連携DMO・ <u>地域DMO</u>	
観光地域づくり法人の名称	(一社) 十和田奥入瀬観光機構	
マネジメント・マーケティング対象とする区域	区域を構成する地方公共団体名 青森県十和田市	
所在地	青森県十和田市稲生町 15 番 3 号	
設立時期	平成 31 年 3 月 1 日	
事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日までの 1 年間	
職員数	15 人【常勤 13 人（正職員 8 人・非常勤 5 人）】	
理事長	(氏名) 岩間 恵美郎	十和田商工会議所で広報委員長として機関誌の制作等に携わったほか、十和田八甲ロータリークラブ会長や十和田中央商店街理事長を歴任し、イベント等にも関わりながら多方面で街の賑わいを演出してきた。現在は、株式会社岩間印刷代表取締役のほか、十和田市中心市街地活性化基本計画立案時から携わっている株式会社まちづくり十和田の代表取締役や、十和田商工会議所副会頭も務めている。
副理事長兼全体統括	(氏名) 櫻田 一雅	昭和 47 年 4 月十和田商工会議所入所。会議所イベント事業を担当し、平成 4 年 4 月から十和田市観光協会事務局長、平成 19 年 4 月から専務理事を歴任した。また、平成 13 年 4 月から十和田商工会議所事務局長、平成 18 年 5 月から専務理事となる。現在も、商工会議所事業運営や各イベントに携わっている。
データ分析に基づいたマーケティングに関する責任者 (CMO)	(氏名) 河津 拓郎「専従」 (出身組織名) 総合警備保障株式会社	総合警備保障株式会社にて、2019 年からデジタルマーケティング室の立ち上げに参画し、デジタル領域を中心とした事業戦略やマーケティング計画の策定に携わるほか、アンケート調査業務やコンテンツマーケティング、ホームページ改修などの具体的施策のディレクションも担当した。また、外務省へ出向しアフリカ地域での海外勤務実績をもつ。
事務局次長兼財務責任者兼 総務財務部部長	(氏名) 池田 陽子「専従」 (出身組織名)	十和田市観光協会の勤務歴が長く、国内旅行業務取扱管理者の資格をもち、着地型旅行商品造成に携わった実績をもつ。地域事業者とのつながりが強く、関係団体の調整や会員サポートを行うほ

	一般社団法人十和田市観光協会	か、収益事業にも取り組んでいる。十和田市観光協会在籍時も、会計業務を兼任し、持続可能な運営のための運営終始や財源確保に関する検討を行う。
企画マーケティング部マネージャー	(氏名) 磯 汐梨「専従」 (出身組織名) セイハネットワーク株式会社	株式会社 JTB にて約 5 年間、国内個人旅行商品の営業および企画業務に従事。その後、インバウンドを通じた地域観光への貢献を志し、語学力向上のため留学を実施。帰国後は子ども英会話教室にて講師として教育分野の経験を積む。現在は旅行商品の造成やインバウンド受入体制の整備に加え、奥入瀬溪流のガイドとして現場でも活動している。
連携する地方公共団体の担当部署名及び役割	<十和田市> 農林商工部商工観光課（予算の確保、観光振興全般、市観光戦略会議） 農林商工部とわだ産品販売戦略課（産品開発） 教育委員会スポーツ・生涯学習課（文化財保護） <青森県> 観光交流推進部各課（県内連携、観光プロモーション） 上北地域県連携事務所（地域連携、商品開発） <秋田県> 小坂町役場観光産業課（広域連携、イベント） 鹿角市役所産業活力課（広域連携、イベント） 観光文化スポーツ部誘客推進課（広域連携、イベント）	
連携する事業者名及び役割	一般社団法人東北観光推進機構 公益社団法人青森県観光国際交流機構 一般財団法人 VISIT はちのへ 一般社団法人 Clan PEONY 津軽 一般社団法人しもきたツーリズム 株式会社かづの観光物産公社 環境省十和田八幡平国立公園管理事務所 一般社団法人自然公園財団十和田支部 一般社団法人十和田湖国立公園協会 十和田商工会議所 各種民間事業者	
官民・産業間・地域間との持続可能な連携を図るための合意形成の仕組み	【該当する登録要件】①② (概要) ・理事会には、十和田市（以下「本市」という。）内の商工業・農業・金融を含む産業団体の代表者、青森県内に支店を置く運輸・旅行の大手企業、地元観光事業者の各分野の代表が理事として参画し、観光地域づくりの方向性を理事会で決定している。 ・実務的な事業の企画立案、課題やテーマに応じて部会を設置。事業者を集めた部会を開催し、各種実績データ共有による進捗管理により PDCA サイクルを回している。 ・本市や十和田奥入瀬観光機構（以下「当 DMO」という。）、行政機関により「十和田市観光戦略会議（後述）」を設置し、オール十和田の体制での観光地域づくりの方向性や戦略について協議している。 ・景観形成や特定地域における面的な課題に対する施策決定の過程においては、地域での懇談会の開催を重ねながら、事業者や住民の意向を聴取・反映している。	

地域住民に対する観光地域づくりに関する意識啓発・参画促進の取組	地域住民や会員を対象に下記のような情報周知の場を設け、意識啓発に努める。 (1) 全体部会、各部会、会員周知 各種取組や情報の共有、地域課題の解決や意識合わせ等を目的とし、適宜開催。また、会員対象のメールでも情報共有を行っている。 (2) 地域事業者や会員参加によるセミナー・研修 持続可能な観光地域づくりに資するため、また、年々増加しているインバウンド観光客に対応するため、各種セミナーや研修を開催。 今年度は、当市を訪れるインバウンドの中で構成比の高い中華圏の観光客の対応向上を目的とし、接客業向けの中国語セミナーを開催予定。 (3) 教育機関との連携 主に市内高等学校の探究授業において連携し、生徒設定のテーマに対するアドバイザリー、市内事業者との橋渡しを行う。 (4) 当機構主催事業 シビックプライド醸成を目的とした各種事業を実施。 令和7年度は、これまで注目されなかった場所・物・人々を題材にした十和田市の広報ポスターを制作するほか、これを活用した展覧会やキャンペーンも展開し魅力の再発見と認知を図る。また、市内英会話教室と連携し、十和田湖畔での子供向け English Summer Camp を実施し、インバウンド受け入れと十和田市の持つ自然資源への理解を深める								
法人のこれまでの活動実績	【活動の概要】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>事業</th><th>実施概要</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マーケティング事業</td><td> ・ 十和田市観光戦略の策定 ・ QR コードを活用した来訪者アンケート ・ 宿泊統計（収集・分析） ・ 市民の観光意識調査（収集・分析） ・ 観光入込客数（収集・分析） ・ Web サイトのアクセス解析 ・ 東北観光 DMP を活用した来訪者等の動態分析 </td></tr> <tr> <td>情報発信・プロモーション</td><td> ・ 観光パンフレットの制作・管理 ・ PR ポスター制作 ・ 観光 PR グッズの企画・制作 ・ WEB サイト内制運用とその多言語対応 ・ SNS による情報発信 ・ 外部メディア向け広告物の制作・支援 ・ 市内宣材写真の撮影と貸出 ・ フォトコンテスト ・ オンラインマップ「とわだ旅マップ」「とわだ酒場放浪」 ・ 商談会に参加・エージェントセールス ・ FAM トリップ </td></tr> <tr> <td>受入環境の整備</td><td> ・ 外部専門家による DMO 会員事業者等に対するセミナー実施 ・ インターンシッププログラムの実施による学びの機会提供 ・ 教育旅行用学習教材の構成案及びデザイン案制作 ・ 奥入瀬溪流のガイド育成事業の実施 ・ 持続可能な観光地経営を目指した GSTC 研修の実施 ・ 教育機関との連携（出前講座など） ・ 奥入瀬愛情たっぷり弁当販売 ・ 持続可能な観光推進モデル事業（エコツアー）の実施 ・ セーフコミュニティ活動への参加 ・ デジタルサイネージを活用した観光案内と多言語対応化 </td></tr> </tbody> </table>	事業	実施概要	マーケティング事業	・ 十和田市観光戦略の策定 ・ QR コードを活用した来訪者アンケート ・ 宿泊統計（収集・分析） ・ 市民の観光意識調査（収集・分析） ・ 観光入込客数（収集・分析） ・ Web サイトのアクセス解析 ・ 東北観光 DMP を活用した来訪者等の動態分析	情報発信・プロモーション	・ 観光パンフレットの制作・管理 ・ PR ポスター制作 ・ 観光 PR グッズの企画・制作 ・ WEB サイト内制運用とその多言語対応 ・ SNS による情報発信 ・ 外部メディア向け広告物の制作・支援 ・ 市内宣材写真の撮影と貸出 ・ フォトコンテスト ・ オンラインマップ「とわだ旅マップ」「とわだ酒場放浪」 ・ 商談会に参加・エージェントセールス ・ FAM トリップ	受入環境の整備	・ 外部専門家による DMO 会員事業者等に対するセミナー実施 ・ インターンシッププログラムの実施による学びの機会提供 ・ 教育旅行用学習教材の構成案及びデザイン案制作 ・ 奥入瀬溪流のガイド育成事業の実施 ・ 持続可能な観光地経営を目指した GSTC 研修の実施 ・ 教育機関との連携（出前講座など） ・ 奥入瀬愛情たっぷり弁当販売 ・ 持続可能な観光推進モデル事業（エコツアー）の実施 ・ セーフコミュニティ活動への参加 ・ デジタルサイネージを活用した観光案内と多言語対応化
事業	実施概要								
マーケティング事業	・ 十和田市観光戦略の策定 ・ QR コードを活用した来訪者アンケート ・ 宿泊統計（収集・分析） ・ 市民の観光意識調査（収集・分析） ・ 観光入込客数（収集・分析） ・ Web サイトのアクセス解析 ・ 東北観光 DMP を活用した来訪者等の動態分析								
情報発信・プロモーション	・ 観光パンフレットの制作・管理 ・ PR ポスター制作 ・ 観光 PR グッズの企画・制作 ・ WEB サイト内制運用とその多言語対応 ・ SNS による情報発信 ・ 外部メディア向け広告物の制作・支援 ・ 市内宣材写真の撮影と貸出 ・ フォトコンテスト ・ オンラインマップ「とわだ旅マップ」「とわだ酒場放浪」 ・ 商談会に参加・エージェントセールス ・ FAM トリップ								
受入環境の整備	・ 外部専門家による DMO 会員事業者等に対するセミナー実施 ・ インターンシッププログラムの実施による学びの機会提供 ・ 教育旅行用学習教材の構成案及びデザイン案制作 ・ 奥入瀬溪流のガイド育成事業の実施 ・ 持続可能な観光地経営を目指した GSTC 研修の実施 ・ 教育機関との連携（出前講座など） ・ 奥入瀬愛情たっぷり弁当販売 ・ 持続可能な観光推進モデル事業（エコツアー）の実施 ・ セーフコミュニティ活動への参加 ・ デジタルサイネージを活用した観光案内と多言語対応化								

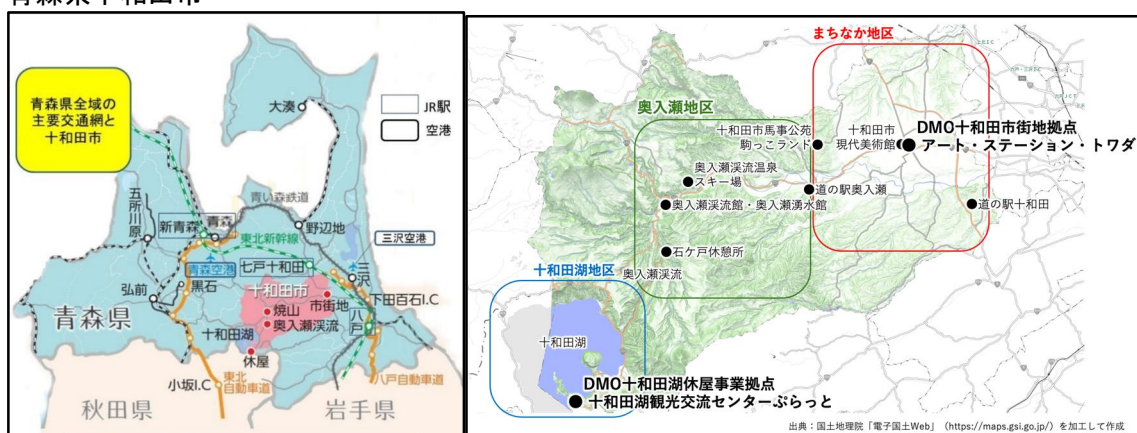
	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="430 194 619 264"></td><td data-bbox="619 194 1401 264"> ・地域事業者向け英会話セミナー ・子供向け English Summer Camp </td></tr> <tr> <td data-bbox="430 264 619 884">観光資源の磨き上げ</td><td data-bbox="619 264 1401 884"> R6 年度に実施した当機構主催の観光コンテンツを抜粋 ・奥入瀬溪流氷瀑ツアー（冬季観光促進） ・奥入瀬溪流氷瀑プレミアムツアー（冬季観光促進/高付加価値化） ・道の駅奥入瀬ろまんパーク手ぶらキャンプ（域内周遊強化と観光拠点利活用） ・とわだ夜さんぽ（冬季観光促進・ナイトタイムエコノミー活性） ・Golden Age Disco Night（ナイトタイムエコノミー活性） ・十和田湖畔 MINI トライアスロン（アドベンチャーツーリズム） ・English Summer Camp（シビックプライドとインバウンド受入環境整備に向けた意識の醸成） ・稲刈りおにぎり（グリーンツーリズム） ・各種旅行商品造成に向けたモニターツアーの実施 ・イグルー作り体験・イグルーレストラン（冬季観光促進） ・青森の水を楽しむ 八戸×十和田（広域周遊強化） </td></tr> </table> 【定量的な評価】（令和 6 年度） ○情報発信・プロモーション ・Towada Travel ウェブサイト（氷瀑 LP を除く） - アクティブユーザー数 203,230（前年比+37.93%） - 表示回数 503,400（前年比+55.43%） ・Instagram - 投稿回数 453 回（前年差+409 回） - フォロワー数 7,748 人（前年同月差+1,244） ・メディア - メディア掲載実績 483 件（前年差+166 件） ・プレスリリース - 配信件数 59 件（前年差+6 件）		・地域事業者向け英会話セミナー ・子供向け English Summer Camp	観光資源の磨き上げ	R6 年度に実施した当機構主催の観光コンテンツを抜粋 ・奥入瀬溪流氷瀑ツアー（冬季観光促進） ・奥入瀬溪流氷瀑プレミアムツアー（冬季観光促進/高付加価値化） ・道の駅奥入瀬ろまんパーク手ぶらキャンプ（域内周遊強化と観光拠点利活用） ・とわだ夜さんぽ（冬季観光促進・ナイトタイムエコノミー活性） ・Golden Age Disco Night（ナイトタイムエコノミー活性） ・十和田湖畔 MINI トライアスロン（アドベンチャーツーリズム） ・English Summer Camp（シビックプライドとインバウンド受入環境整備に向けた意識の醸成） ・稲刈りおにぎり（グリーンツーリズム） ・各種旅行商品造成に向けたモニターツアーの実施 ・イグルー作り体験・イグルーレストラン（冬季観光促進） ・青森の水を楽しむ 八戸×十和田（広域周遊強化）
	・地域事業者向け英会話セミナー ・子供向け English Summer Camp				
観光資源の磨き上げ	R6 年度に実施した当機構主催の観光コンテンツを抜粋 ・奥入瀬溪流氷瀑ツアー（冬季観光促進） ・奥入瀬溪流氷瀑プレミアムツアー（冬季観光促進/高付加価値化） ・道の駅奥入瀬ろまんパーク手ぶらキャンプ（域内周遊強化と観光拠点利活用） ・とわだ夜さんぽ（冬季観光促進・ナイトタイムエコノミー活性） ・Golden Age Disco Night（ナイトタイムエコノミー活性） ・十和田湖畔 MINI トライアスロン（アドベンチャーツーリズム） ・English Summer Camp（シビックプライドとインバウンド受入環境整備に向けた意識の醸成） ・稲刈りおにぎり（グリーンツーリズム） ・各種旅行商品造成に向けたモニターツアーの実施 ・イグルー作り体験・イグルーレストラン（冬季観光促進） ・青森の水を楽しむ 八戸×十和田（広域周遊強化）				
実施体制 ※地域の関係者との連携体制及び地域における合意形成の仕組みが分かる図表等を必ず記入すること（別添可）。	【実施体制の概要】 ・当 DMO の構成メンバー（会員）には、宿泊業者、アクティビティ事業者、交通事業者のみならず飲食業者、農業者、建設業者など多様な関係者が参画し、地域経済の好循環に取り組んでいる。 ・理事会は、地元の事業者以外の観光・交通関係者を理事として招聘するほか、商工業・農業・金融を含む地元の産業団体とともに強固な産業基盤づくりを推進している。 ・十和田市長は、当 DMO の顧問として関わり、本市が当機構や関係機関、民間事業者が参加する観光戦略会議を設置して官民一体となって戦略策定を行っている。 ・分野ごと課題の解決や企画、意見や要望等のヒアリング、情報共有の強化等を目的とし、9 つの部会を設置している。				



2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域

【区域の範囲が分かる図表を挿入】

青森県十和田市



【区域設定の考え方】

(1) 十和田市の概要

本市は、平成 17 年に十和田湖や奥入瀬溪流を有する十和田湖町と、市街地地区である旧十和田市が合併して誕生した。現在の DMO は、十和田市観光協会と十和田湖国立公園協会がそれぞれ行ってきた観光業務を引き継ぎ、十和田奥入瀬観光地域の観光地域づくりを一元的に担っている。そのため、対象区域は十和田市全域である。

当 DMO は、十和田湖畔・奥入瀬溪流・市街地というそれぞれ特有の性質を有する 3 つのエリアを含む全域を視野に入れた施策を行うため、アクセスの良い中心市街地に本拠点を置き、あわせて自然観光地区での案内や情報発信のために十和田湖畔休屋にも事務所を設置している。

(2) 十和田湖畔地区

十和田湖畔地区は、国立公園として全国的に著名な観光地として知られている一方、近年では豊かな自然を活かしたトレッキング・カヌー・キャンプなどの体験型観光も伸びている。かつては団体旅

行で賑わい、平成 14 年には宿泊施設が約 30 施設あったが、現在は 10 施設前後に減少しており、リピーター需要を創出する個人旅行への対応に転換できていないことが要因として挙げられる。

廃業施設や大型廃船の放置により景観が悪化し、複雑な権利関係から撤去も困難。営業継続中の施設も老朽化と事業者の高齢化が進み、事業承継が大きな懸念となっている。

(3) 奥入瀬地区

現在の十和田観光の主役は十和田湖畔ではなく奥入瀬溪流であり、豊かな自然美が注目を集めている。人気の一方で、繁忙期の交通渋滞や排ガスによる環境負荷が問題となっており、自然と調和した観光のあり方が求められている。

国による奥入瀬バイパス整備や移動手段の検討が進む中、宿泊施設や飲食提供施設の不足も深刻で、10 月の観光ピーク時には需要を取りこぼす状況にある。オーバーツーリズムへの対応と環境保全の両立が喫緊の課題となっている。

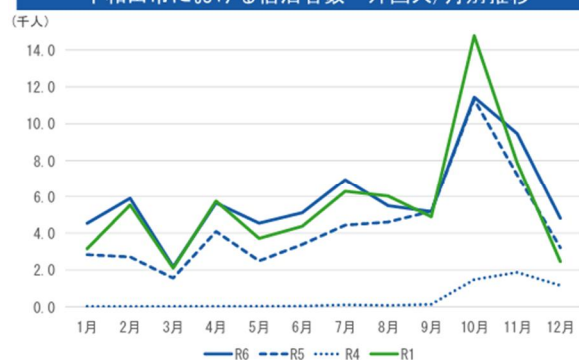
(4) まちなか地区

まちなか地区では、中心的な集客施設である現代美術館が一定の来訪者を維持しているものの、周辺エリアとの連携が弱く、滞留時間や消費拡大にはつながっていない。空き地や空き店舗の増加により中心商店街の空洞化が進み、若年層を中心とした比較的新しい来訪者のニーズに十分応えられていない。こうした課題を踏まえ、現代美術館と連携した取り組みを通じて市内全体の回遊性を高める施策を行うほか、まち歩きマップや体験コンテンツの整備も含め、まちなか全体の滞留時間と消費促進を目指している。

【観光客の実態等】

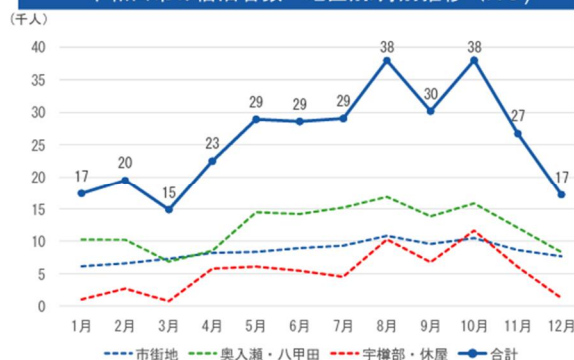
十和田市の観光入込客数・宿泊客数はコロナ禍で大きく減少したが、令和 5 年にはいずれもコロナ前の 90% 以上に回復。宿泊客数は令和 4 年以降増加しているが、日本人観光客は年々 5 % 前後減少しており、増加分はインバウンドが支えている。入込客は、国内は 40～50 代が中心で、隣接県や東北、首都圏、大阪圏からの来訪が多い。インバウンドの国籍は台湾が約 75% を占め、次いで中国、香港となっている。観光消費額も令和 5 年にはコロナ禍前と同程度の水準に回復し、令和 6 年には宿泊費の伸びを主因に大幅増。宿泊費は堅調だが、飲食・買い物・体験はコロナ前の 7 割程度にとどまる。外国人観光客の消費額は日本人より 2 割以上高い。

十和田市における宿泊者数 外国人/月別推移

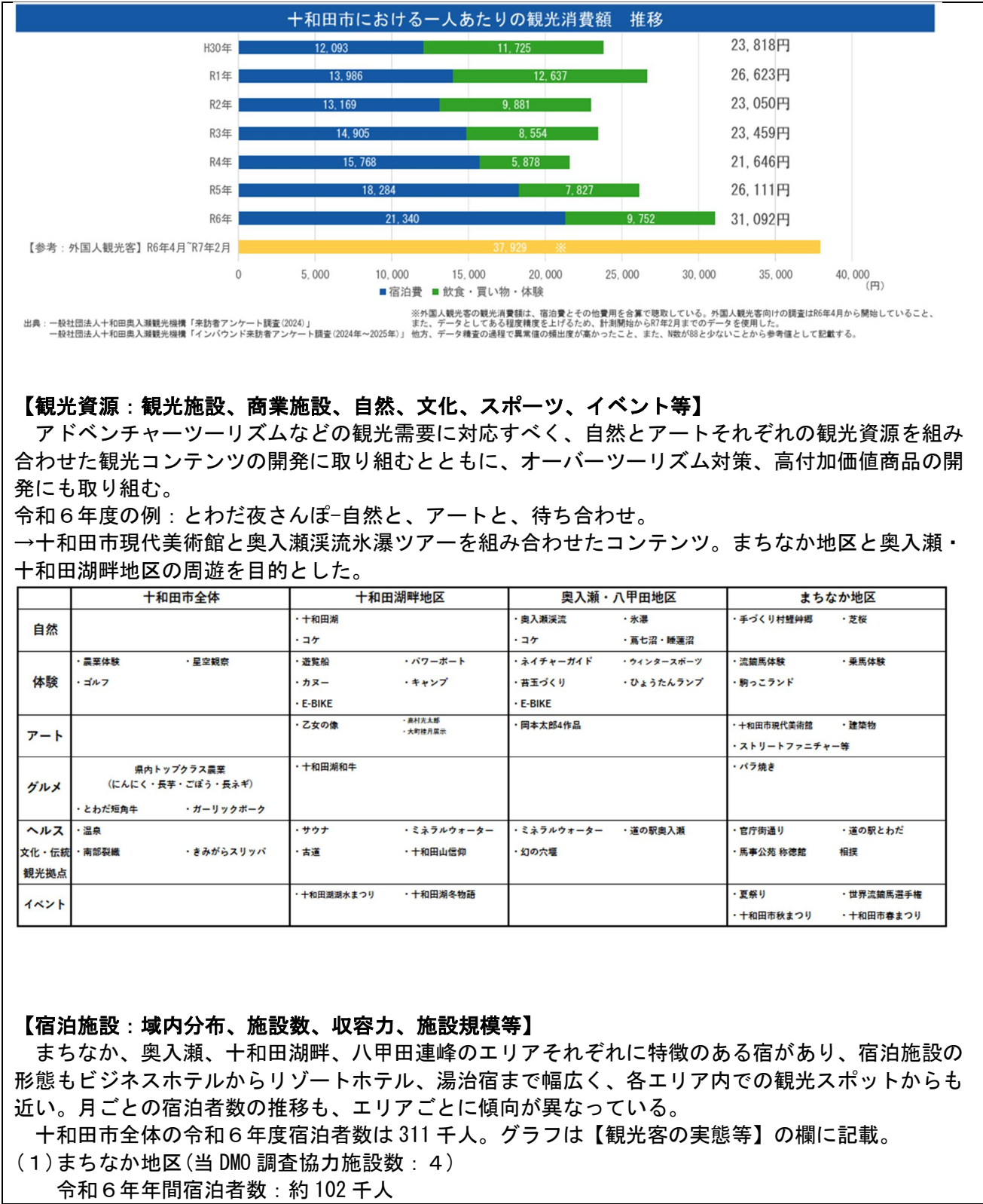


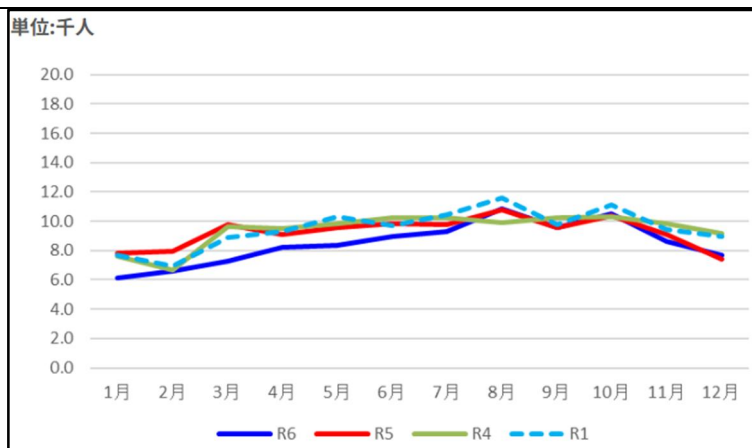
出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「宿泊統計調査(2024)」
※十和田市内宿泊施設のうち回答のあった協力施設の宿泊者数集計

十和田市の宿泊者数 地区別/月別推移 (R6)

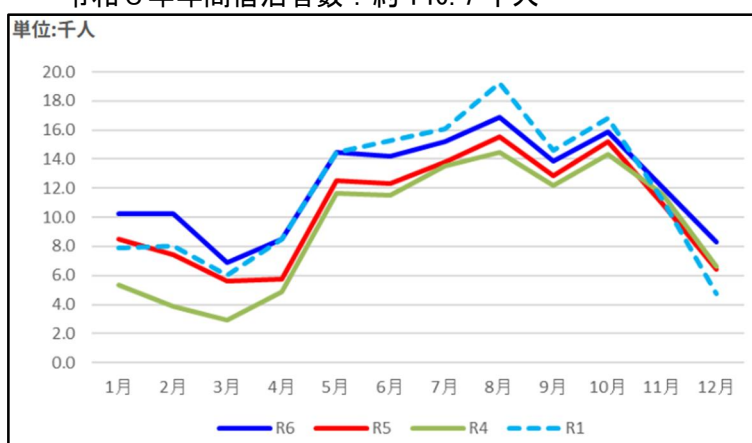


出典：一般社団法人十和田奥入瀬観光機構「宿泊統計調査(2024)」
※十和田市内宿泊施設のうち回答のあった協力施設の宿泊者数集計

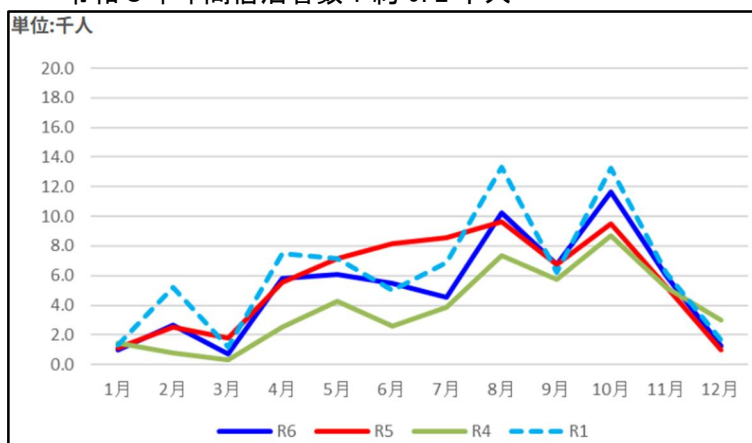




(2) 奥入瀬・八甲田地区(当 DM0 調査協力施設数 : 9)
令和 6 年年間宿泊者数 : 約 146.7 千人



(4) 十和田湖畔地区(当 DM0 調査協力施設数 : 7)
令和 6 年年間宿泊者数 : 約 6.2 千人



【利便性：区域までの交通、域内交通】

(1) 区域までの交通

- ・ 主要駅・空港まで
新幹線…JR 東京駅から JR 八戸駅・七戸十和田駅・新青森駅まで約 3～4 時間
飛行機…羽田空港から青森空港・三沢空港まで約 1 時間 15 分
- ・ 主要駅・空港から十和田まで
八戸駅から自動車・バスで約 60 分

七戸十和田駅から自動車・バスで約 20 分
青森駅・青森空港から自動車・バスで約 90～120 分
三沢空港から自動車・バスで約 20 分

(2) 域内の交通

域内の交通は JR バス、十和田観光電鉄バス、市街地循環バス、タクシー等の自動車のみ
まちなか地区⇄30 分⇄奥入瀬地区⇄20 分⇄十和田湖畔地区

【外国人観光客への対応】

- ・多言語のパンフレット及びホームページ
- ・コミュニケーションツール（エリアマップ、指さしツール）の制作・活用
- ・音声ガイド、ガイドブック（英語版）
- ・インターネットからの旅行予約（英語対応）及び事前決済
- ・観光案内所での多言語対応
- ・外国人観光客受入態勢の強化

3. 各種データ等の継続的な収集・分析

収集するデータ	収集の目的	収集方法
1人当たりの旅行消費額	観光による経済効果を確認する指標として活用。また、来訪者の消費動向を分析し、消費単価向上に繋げるため。	来訪者アンケート(当機構にて実施)
延べ宿泊者数	来訪者数を確認する指標	当機構にて協力施設より収集
来訪者満足度	受入環境の整備状況を確認する指標	来訪者アンケート
リピーター率	来訪者満足度の向上による効果を図るための指標。	来訪者アンケート
WEBサイトのアクセス状況	地域に対する顧客の関心度や施策の効果等を把握するため。	Google アナリティクス
連泊率	連泊の傾向を把握し、推進するため	来訪者アンケート
推奨度(NPS)	来訪者の推奨意向を把握し、観光の質を評価するため。	来訪者アンケート

4. 戦略

(1) 地域における観光を取り巻く背景

令和6年の十和田市内の宿泊者数は、前年比102.0%と増加傾向にある。この内訳を見ると、日本人宿泊者数は前年比95.2%と前年を下回る一方で、外国人宿泊者数は前年比134.4%と大きく伸長している。また、宿泊者全体に占める外国人の構成比は22.9%と近年で最も高い水準である。こうした傾向は、インバウンド需要が回復しているだけでなく、当地域の観光市場が変化しつつあることを示している。

これを受け、十和田市観光戦略会議にて関連団体と協議を行った後、十和田市と当機構にて「十和田市観光戦略2025-2029」を新たに策定した。本戦略に則り、「自然とアートを核に稼いで潤う持続的な観光地域づくり」という従来のビジョンを継承しながらも、これまでの取り組みで得られた課題や成果を踏まえ、十和田市の観光をさらに盛り上げていく。

(2) 地域の強みと弱み

	好影響	悪影響
内部環境	強み (Strengths) ・ エリア毎に違う観光資源 ・ 三沢空港、七戸十和田駅、八戸駅など近隣の観光市場が近場 ・ 来訪者の外国人比率 30%	弱み (Weaknesses) ・ 市の人口減少・高齢化 ・ 二次交通・地域内交通の不足 ・ 高付加価値化商品の不足 ・ 滞在型宿泊施設の不足 ・ 観光人材不足、DX化の遅れ ・ 十和田固有の食文化が低収益 ・ 他地域との連携不足
外部環境	機会 (Opportunity) ・ 奥入瀬バイパスの整備による立ち寄りやすさ向上 ・ 青森空港の台湾便、中国便の復活 ・ 観光市場の伸長回復とインバウンド回復 ・ 台湾居住者の青森県認知度 86.8% ・ 観光関連事業者増加	脅威 (Threat) ・ インバウンド需要減 ・ 資材、仕入、燃料等準物価の高騰 ・ コロナ禍後の若年層の観光経験不足 ・ 地方財政の不安 ・ 観光客の運転免許取得率の減少 ・ 市民のシビックプライドの欠如 ・ 繁忙期の利益の減少

「2. 観光地域づくり法人がマネジメント・マーケティングする区域」でも先述のように十和田市はエリアごとに異なる特徴を持っている。そのため、当機構ではエリア別にも SWOT 分析を実施。

	十和田市全体	街なか地区	奥入瀬・八甲田地区	十和田湖畔地区
強み	- エリア毎に違う観光資源 - 三沢空港、七戸十和田駅、八戸駅など近隣の観光市場が近場 - 来訪者の外国人比率30%	- 模倣困難な現代アート - 官庁街通り（日本の道百選） - 基盤の目の街並み - 歴史的背景（開墾、馬の文化）	 - 青楓山バイパス開通 - 十和田観光の主役（知名度が高い） - 日本の貴重な苔の森 - 歴史ある温泉	 - 歴史ある十和田信仰 - 十和田湖ひめます
弱み	- 市の人口減少・高齢化 - 二次交通・地域内交通の不足 - 高付加価値商品の不足 - 滞在型宿泊施設の不足 - 観光人材不足、DX化の遅れ - 十和田固有の食文化の低収益 - 他地域との連携不足	- 宿泊施設の不足 - 空き地や空き店舗の増加 - アート需要の取りこぼし - アート資源の活用不足 - 新規の若い来訪客の需要取りこぼし	- オーバーツーリズム - 規制による新規開発が困難 - 奥入瀬渓流のWi-Fi未整備とトイレ不足	- 個人旅行への対応遅れ - 廃墟、放置遊覧船による景観悪化 - 観光事業者の高齢化
機会	- 奥入瀬バイパスの整備による立ち寄りやすさ向上 - 青森空港の台湾便、中国便の復活 - 観光市場の新調傾向とインバウンド回復 - 台湾居住者の青森県認知度86.8% - 観光関連事業者増加	近隣でのビジネスホテル増加に伴う街なか宿泊数のキャパシティ増	- 国立公園満喫プロジェクト - 青楓山バイパス開通	国立公園先端モデル事業での宿泊施設誘致
脅威	- インバウンド需要減 - 資材、仕入れ、燃料費等物価の高騰 - コロナ禍後の若年層の観光経験不足 - 地方財政の不安 - 観光客の運転免許取得率の減少 - 市民のシビックプライドの欠如 - 繁忙期の利益の減少	ビジネス利用減に伴う宿泊者数の減少	- 積雪不足による冬季イベントの魅力減 - 国立公園内の規制・ルールの変更 - ツアー型観光商品の市場減少 - 交通事業者の撤退	

（3）ターゲット

旅行消費額の観点から、重点的に取り組むべきターゲット像を設定している。

〇夫婦での旅行者（子育て前・50～70代の夫婦）	
〇選定の理由 ①1人当たりの旅行消費額が高い層である 旅行主体別に見た十和田市の1人当たりの旅行消費額では、「夫婦旅行」の層が他の主体に比べて最も高い。次点で「大人のみの家族旅行」が続いている。一方、「未成年を含む家族旅行」の消費額は低く、子育ての有無が旅行消費額に一定の影響を与えていると推察される。 ②新規誘客が期待される層と既に一定の来訪実績がある層である 十和田市と東北全体における各年代の旅行主体別構成比を比較すると、十和田市は「若年層夫婦」の構成比が低く、50～70代夫婦の構成比が高い。 これらの観点から旅行消費額が高い「夫婦旅行」層の中でも、今後の誘客拡大が期待でき、ナイトタイムエコノミー等を通じた旅行消費額の向上が期待できる「子育て前の夫婦での旅行者」と、既に一定の来訪実績のあり、年代別で最も旅行消費額が高い「50～70代での旅行者」の両者をターゲットとして設定した。	
〇取組方針 「子育て前の夫婦での旅行者」は、情報発信や受入環境の整備を通じて新規来訪の促進を図る。 「50～70代の夫婦での旅行者」は、需要をより深掘りする形で、滞在体験の質の向上や消費喚起につながる取り組みを進める。	
〇ひとり旅の旅行者	
〇選定の理由 ①1人当たりの旅行消費額は低い、連泊率が高い 十和田市における「ひとり旅の旅行者」の1人当たりの旅行消費額は、他旅行主体に比較して低い。一方で、旅行主体別の宿泊日数で比較すると連泊率が高い。 滞在日数のさらなる長期化を促すことで、旅行消費額の増加が期待できる。	

②十分に誘客できていない層である

十和田市と東北全体で各年代の旅行主体構成比を比較すると「ひとり旅の旅行者」の構成比は東北よりも低く、これまで十分に獲得できていない層である。

これらの観点から「ひとり旅の旅行者」は、来訪促進と連泊による旅行消費額の向上の両面でポテンシャルが高い層と捉え、ターゲットとして設定した。

○取組方針

連泊を促すコンテンツや環境整備を通じて、滞在日数と旅行消費額の増加を図るとともに、認知拡大に取り組む。

○台湾からの旅行者

○選定の理由

①外国人宿泊者のうち、約 6 割が台湾の方である

青森県を訪れる台湾の方の多くが十和田市を訪問先として選んでおり、県内の他市町村と比較して一定の認知度を獲得している状況にある。

②更なる来訪が見込まれる市場

台湾からの旅行者の東北 6 県における訪問先順位を見ると、青森県は 4 位にとどまり、今後の成長余地がある。コロナ禍に一時運休していた青森＝台湾間の直行便が再開されたことも追い風となる。

日本人旅行者と比較して旅行消費額が高い傾向にあり、今後さらなる拡大が見込める市場として「台湾からの旅行者」をターゲットとする。

○取組方針

直行便の再開を好機と捉え、受入体制の強化と認知の深化を図りながら、滞在価値と消費額の向上を目指す。

（４）観光地域づくりのコンセプト

①コンセプト	○十和田市の観光地域づくりのコンセプト 「自然とアートを核に 持続的に稼いで潤う 上質な観光地域づくり」 ○コンセプトを実現するための十和田奥入瀬観光機構のミッション 地域事業者の挑戦を支え、伴走支援を通じて事業の成長を促す。 観光とまちづくりを両立させ、地域住民が潤い、観光客が楽しめる環境をつくる。事業者と共に持続可能な仕組みを構築する。
②コンセプトの考え方	十和田市における観光は、十和田湖や奥入瀬溪流といった自然と、現代アートを中心とする文化的資源が共存し、来訪者に価値を提供してきた。自然については、古くから観光地として認知され、地域を代表する観光資源となっている。一方、アートは、十和田市現代美術館を中心に、今後さらなる価値の拡大が見込まれる。 こうした性質の異なる観光資源が共存している点も十和田市の観光の特徴の一つである。自然とアートの共存は、他の観光地ではあまり見られず、模倣可能性が低く、十和田市の独自性につながっている。 この特性を土台に、「自然とアートを核に 持続的に稼いで潤う 上質な観光地域づくり」というコンセプトを掲げ、観光を通じた地域経済の活性化と持続的な発展をめざす。

5. 関係者が実施する観光関連事業と戦略との整合性に関する調整・仕組み作り、プロモーション

項目	概要
戦略の多様な関係者との共有 ※頻度が分かるよう記入すること。	・当機構の総会・部会を通じて、戦略や当機構の取組内容について説明を行う。合わせて戦略に伴った事業の方向性や取組に関する意見交換会を実施(令和7年度：6月下旬、9月上旬、11月中旬、3月上旬の年4回を予定) ・必要に応じて、会員向けメール等により情報共有を行う(月1回以上)ほか、座談会などの対話の機会を設ける。 ・十和田市観光戦略会議に参画し、観光戦略について関係機関との連携や意見交換を図る(年1回以上)。 ・十和田市商工観光課と、今後の取組方針や実績に関する情報共有を行う(月1回を予定)。
観光客に提供するサービスについて、維持・向上・評価する仕組みや体制の構築	・来訪者アンケートを実施。その結果を事業者へ定期的にフィードバックし、地域全体でのサービス改善を図る。 ・中国語セミナーやタッチ英会話シートの配布等を通じて、インバウンド対応力の向上を促す。
観光客に対する地域一体となった戦略に基づく一元的な情報発信・プロモーション	・当機構を、十和田市全域の観光情報に関するワンストップの発信窓口として位置づけ、観光情報の一元的な発信と更新管理を推進する。 ・当機構公式ホームページ(https://www.towada.travel)を、観光情報の中心的な発信基盤として運用するとともに、Instagram(@towada_travel)を通してリアルタイムの情報を発信する。ホームページ・SNS いずれにおいても、地域事業者と連携した情報発信を行う。 ・観光パンフレットの定期的な見直しや、デジタルマップの活用など、多様な手段による情報提供の充実を図る。

※各取組について、出来る限り具体的に記入すること。

6. K P I（実績・目標）

※戦略や個別の取組を定期的に確認・改善するため、少なくとも今後3年間における明確な数値目標を記入すること。

※既に指標となりうる数値目標を設定している場合には、最大で過去3年間の実績も記入すること。

（1）必須K P I

指標項目		2022 (R 4)	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)
●旅行消費額 (百万円)	目	7,000	7,000	7,500	11,620	11,620	11,620
	標	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	5,881	7,958	9,668			
●1人当たりの 旅行消費額 (円)	目	26,923	23,333	20,588	35,000	35,000	35,000
	標	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	21,646	26,111	31,092			
●延べ宿泊者数 (千人)	目	260	300	340	332	332	332
	標	(10)	(20)	(35)	(74)	(74)	(74)
	実績	272	305	311			
●来訪者満足度 (%)	目	86.0	85.0	85.0	95.0	95.0	95.0
	標	(88.8)	(90.4)	(90.0)	(95.0)	(95.0)	(95.0)
	実績	94.2	95.2	97.6			
		(-)	(-)	(93.3)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

各目標値の算定については、「十和田市観光戦略 2025-29」に記載の KPI 指標に基づいている。
なお、旅行消費額・宿泊客数は外部含む多くの要因で変動するため、毎年その実績に基づいて修正するものとする。

【設定にあたっての考え方】

●旅行消費額

観光による経済効果を確認する指標。延べ宿泊者数と1人当たりの旅行消費額から算出。
令和6年の実績を元に上方修正した。

●1人当たりの旅行消費額

観光による経済効果を確認する指標。来訪者アンケートより算出した過去実績をもとに設定。
目標値 35,000 円の内訳は、宿泊費 22,000 円、飲食等 13,000 円

●延べ宿泊者数

来訪者数を確認する指標。コロナの影響が落ち着いたとみられる令和6年の宿泊実績を踏まえ
目標値を下方修正した。当機構にて市内の協力施設から集計した過去実績をもとに設定。

●来訪者満足度

受入環境の整備状況を確認する指標。来訪者アンケートより算出した過去実績をもとに設定。

(2) その他の目標

令和7年度より参考指標として「連泊率」と「推奨度(NPS)」を設定。

指標項目		2022 (R 4)	2023 (R 5)	2024 (R 6)	2025 (R 7)	2026 (R 8)	2027 (R 9)
●連泊率 (%)	目標	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	-	14.5			
		(-)	(-)	(-)			
●推奨度 (NPS)	目標	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	-	-			
		(-)	(-)	(-)			
●リピーター率 (%)	目標	60.0	58.0	57.0	60.0	60.0	60.0
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	64.1	61.1	59.8			
		(-)	(-)	(-)			
●月別来訪者の 平準化率	目標	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	-	-			
		(-)	(-)	(-)			
●経済波及効果	目標	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	-	-			
		(-)	(-)	(-)			
●観光事業者 の平均給与額	目標	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	-	-			
		(-)	(-)	(-)			
●持続的な観光 に対する住民満足度	目標	-	-	-	80.0	82.0	84.0
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	76.2	74.7	79.8			
		(-)	(-)	(-)			
●職員満足度	目標	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	-	-			
		(-)	(-)	(-)			
●安定財源確保率	目標	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	-	-			
		(-)	(-)	(-)			
●投資収益率	目標	-	-	-	-	-	-
		(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)
	実績	-	-	-			
		(-)	(-)	(-)			

※括弧内は、訪日外国人旅行者に関する数値

※各指標項目の単位を記入すること。

指標項目及び目標数値の設定にあたっての検討の経緯及び考え方

【検討の経緯】

「十和田市観光戦略 2025-29」策定にあたり、観光戦略の効果を確認するための参考指標を設定。基準となる過去実績がないことから、当面は収集・分析を進め、その結果を踏まえて目標数値を設定する。

【設定にあたっての考え方】

●連泊率

連泊を推進していく指標として、市内の宿泊施設にどの程度連泊しているのか算出した数値。同一施設ではなく、十和田市内の施設に連続して宿泊した割合を指標とする。来訪者アンケートより算出する。

●推奨度(NPS)

一定の満足度を獲得できていることから、他人に推奨したい度合いを計測する。顧客ロイヤルティを細分して数値化、評価できるように新たに計測を開始する。来訪者アンケートより算出する。

●リピーター率

来訪者満足度の向上による効果を図るための指標。来訪者アンケートより算出した過去実績をもとに設定。新規顧客を増やすことも重要であるため、50%～60%程度を維持するものとする。昨年度まで KPI としていた、上述のとおり重点を NPS に移行していく。

●「持続的な観光に対する住民満足度」

観光に対する市民意識の変化、満足度の程度を評価する指標。

市民意識調査から、定住意向、観光地評価、期待・外的要因、主体的関与、将来信頼、政策的理解といった多面的な評価項目をその重要度に則り重み付けし、独自に定義して計測。

●「月別来訪者の平準化率」「経済波及効果」「職員満足度」「安定財源確保率」「投資収益率」

今後、DMO の登録要件変更に伴い、必須 KPI に追加される見込の指標。DMO 更新に向け、収集方法や目標値の検討を進めていく。

7. 活動に係る運営費の額及び調達方法の見通し

※少なくとも今後3年間について、計画年度毎に（１）収入、（２）支出を記入すること。

※現に活動している法人にあっては、過去3年間の実績も記入すること。

（１）収入

年（年度）	総収入（円）	内訳（具体的に記入すること）
2022（R4） 年度	213,550,273（円）	【国からの補助金】 15,629,039 円 【都道府県からの補助金】 0 円 【市からの補助金】 62,846,000 円 【市からの委託金】 61,550,000 円 【県からの委託金】 1,057,540 円 【公物管理受託】 38,292,000 円 【収益事業】 18,636,323 円 【会費】 2,845,000 円 【特定財源・その他】 12,694,371 円
2023（R5） 年度	212,286,057（円）	【国からの補助金】 25,891,127 円 【都道府県からの補助金】 0 円 【市からの補助金】 48,639,881 円 【市からの委託金】 63,854,940 円 【県からの委託金】 6,371,420 円 【公物管理受託】 41,121,400 円 【収益事業】 19,195,359 円 【会費】 2,785,000 円 【特定財源等】 4,426,930 円
2024（R6） 年度	193,334,232（円）	【国からの補助金】 0 円 【都道府県からの補助金】 0 円 【市からの補助金】 46,723,650 円 【市からの委託金】 70,726,748 円 【県からの委託金】 3,179,000 円 【公物管理受託】 39,276,900 円 【収益事業】 21,420,768 円 【会費】 2,695,000 円 【特定財源等】 9,312,166 円
2025（R7） 年度	192,300,000（円）	【国からの補助金】 0 円 【都道府県からの補助金】 0 円 【市からの補助金】 56,250,000 円 【市からの委託金】 65,875,341 円 【県からの委託金】 0 円 【公物管理受託】 48,743,000 円 【収益事業】 11,580,000 円 【会費】 2,700,000 円 【特定財源等】 7,151,659 円
2026（R8） 年度	192,815,000（円）	【国からの補助金】 0 円 【都道府県からの補助金】 0 円 【市からの補助金】 57,300,000 円 【市からの委託金】 66,000,000 円 【県からの委託金】 0 円 【公物管理受託】 49,500,000 円

		【収益事業】	10,000,000 円
		【会費】	2,700,000 円
		【特定財源等】	7,315,000 円
2027 (R 9) 年度	191,315,000 (円)	【国からの補助金】	0 円
		【都道府県からの補助金】	0 円
		【市からの補助金】	58,300,000 円
		【市からの委託金】	66,000,000 円
		【県からの委託金】	0 円
		【公物管理受託】	47,000,000 円
		【収益事業】	10,000,000 円
		【会費】	2,700,000 円
		【特定財源等】	7,315,000 円

(2) 支出

年 (年度)	総支出	内訳 (具体的に記入すること)
2022 (R 4) 年度	208,260,443 (円)	【DMO運営費】 50,810,543 円 【一般管理費】 2,825,824 円 【情報発信・プロモーション】 13,592,340 円 【受入環境整備等】 5,973,356 円 【コンテンツ開発等】 48,942,796 円 【マーケティング等】 9,755,473 円 【インバウンド対策】 1,276,037 円 【観光イベント等】 15,961,999 円 【指定管理等】 33,783,298 円 【その他】 25,338,777 円
2023 (R 5) 年度	208,685,011 (円)	【DMO運営費】 50,411,814 円 【一般管理費】 2,722,708 円 【情報発信・プロモーション】 16,771,269 円 【受入環境整備等】 7,754,763 円 【コンテンツ開発等】 60,352,173 円 【マーケティング等】 9,169,578 円 【インバウンド対策】 4,090,416 円 【指定管理等】 40,966,871 円 【その他】 16,391,689 円
2024 (R 6) 年度	175,251,433 (円)	【DMO運営費】 48,735,941 円 【一般管理費】 2,054,729 円 【情報発信・プロモーション】 17,771,528 円 【受入環境整備等】 7,261,238 円 【コンテンツ開発等】 36,649,998 円 【マーケティング等】 2,038,093 円 【インバウンド対策】 5,957,886 円 【観光イベント等】 3,298,210 円 【指定管理等】 36,594,887 円 【その他】 14,888,923 円
2025 (R 7) 年度	192,300,000 (円)	【DMO運営費】 60,889,919 円 【一般管理費】 2,700,000 円 【情報発信・プロモーション】 17,560,000 円 【受入環境整備等】 4,820,000 円 【コンテンツ開発等】 35,275,341 円 【マーケティング等】 4,020,000 円

		【インバウンド対策】	4,200,000 円
		【指定管理等】	51,234,740 円
		【その他】	11,600,000 円
2026 (R 8) 年度	192,815,000 (円)	【DMO運営費】	57,300,000 円
		【一般管理費】	2,700,000 円
		【情報発信・プロモーション】	17,000,000 円
		【受入環境整備等】	7,315,000 円
		【コンテンツ開発等】	35,000,000 円
		【マーケティング等】	4,000,000 円
		【インバウンド対策】	5,000,000 円
		【指定管理等】	49,500,000 円
		【その他】	15,000,000 円
2027 (R 9) 年度	191,315,000 (円)	【DMO運営費】	58,300,000 円
		【一般管理費】	2,700,000 円
		【情報発信・プロモーション】	17,000,000 円
		【受入環境整備等】	7,315,000 円
		【コンテンツ開発等】	35,000,000 円
		【マーケティング等】	4,000,000 円
		【インバウンド対策】	5,000,000 円
		【指定管理等】	47,000,000 円
		【その他】	15,000,000 円

(3) 自律的・継続的な活動に向けた運営資金確保の取組・方針

地域 DMO としての当機構は、地域観光振興におけるハブ機能・政策実装機能・民間連携機能を担っており、これまでの活動資金の多くは公的補助金・委託金である。
今後、新たな収益事業（例：E-bike 収益還元モデル、ガイドプログラム直販）の展開、ふるさと納税連携による寄附スキームの実装の他、部会や座談会を活用した地域事業者からのヒアリングを実施しながら宿泊税の導入に向け十和田市と連携・検討をする。

8. 観光地域づくり法人形成・確立に対する関係都道府県・市町村の意見

青森県十和田市は、全市一体的に観光振興を担う組織として一般社団法人十和田奥入瀬観光機構を設立した経緯があり、十和田市が有する地域資源を強みとして活用し、魅力ある観光地づくり及び雇用を創出し、及び足腰の強い産業経済基盤づくりを推進することとしている。

9. マネジメント・マーケティング対象区域が他の地域連携 DMO（県単位以外）や地域 DMO と重複する場合の役割分担について（※重複しない場合は記載不要）

該当なし

10. 記入担当者連絡先

担当者氏名	池田陽子
担当部署名（役職）	事務局次長 兼 財務責任者（CFO） 兼 総務財務部部長
郵便番号	034-0011
所在地	青森県十和田市稲生町 15-3
電話番号（直通）	0176-24-3006
FAX番号	0176-24-3007
E-mail	business@towada.travel

11. 関係する都道府県・市町村担当者連絡先

都道府県・市町村名	青森県
担当者氏名	大庭一郎
担当部署名（役職）	青森県観光国際戦略部 観光政策課（観光地域づくり推進グループマネージャー）
郵便番号	030-8570
所在地	青森県青森市長島一丁目 1-1
電話番号（直通）	017-734-9400
FAX番号	017-734-8121
E-mail	kanko@pref.aomori.lg.jp

都道府県・市町村名	十和田市
担当者氏名	岩城 圭祐
担当部署名（役職）	農林商工部 商工観光課 観光企画係（係長）
郵便番号	〒034-8615
所在地	青森県十和田市西十二番町 6-1
電話番号（直通）	0176-51-6771
FAX番号	0176-22-9799
E-mail	keisuke_iwaki@city.towada.lg.jp

基礎情報

【マネジメント・マーケティング対象とする区域】

青森県 十和田市

【設立時期】 2019年3月1日

【設立経緯】

③区域の観光協会がDMOに移行

【代表者】 岩間 恵美郎

【マーケティング責任者(CMO)】 河津 拓郎

【財務責任者(CFO)】 池田 陽子

【職員数】 15人(常勤13人(正職員9人、臨時職員4人)、非常勤2人)

【主な収入】

収益事業 21百万円、補助金 46百万円、委託事業 113百万円
会費収入等 12百万円 (6年度決算)

【総支出】

事業費 173百万円、一般管理費 2百万円(6年度決算)

【連携する主な事業者】

十和田市商工観光課、十和田商工会議所、
青森県観光国際交流機構等の各地域連携DMO

KPI(実績・目標)

記入日: 令和7年7月30日

※()内は外国人に関するもの。

項目		2022 (R4)年度	2023 (R5)年度	2024 (R6)年度	2025 (R7)年度	2026 (R8)年度	2027 (R9)年度
旅行 消費額 (百万円)	目標	7,000 (-)	7,000 (-)	7,500 (-)	11,620 (-)	11,620 (-)	11,620 (-)
	実績	5,881 (-)	7,958 (-)	9,668 (-)	—	—	—
延べ 宿泊者数 (千人)	目標	260 (10)	300 (20)	340 (35)	332 (74)	332 (74)	332 (74)
	実績	272 (5)	305 (53)	311 (71)	—	—	—
来訪者 満足度 (%)	目標	86.0 (88.0)	85.0 (90.4)	85.0 (90.0)	95.0 (95.0)	95.0 (95.0)	95.0 (95.0)
	実績	94.2 (-)	95.2 (-)	97.6 (93.3)	—	—	—
リピーター率 (%)	目標	60.0 (-)	58.0 (-)	57.0 (-)	60.0 (-)	60.0 (-)	60.0 (-)
	実績	64.1 (-)	61.1 (-)	59.8 (-)	—	—	—

戦略

【主なターゲット】

夫婦での旅行者、ひとり旅の旅行者
台湾からの旅行者

【ターゲットの誘客に向けた取組方針】

- ・情報発信、受入体制整備を強化、滞在体験の質の向上、連泊促進のコンテンツ造成を通じて、旅行消費額の増加を図る
- ・直行便の再開を好機と捉え、滞在価値と消費額向上を目指す。

【観光地域づくりのコンセプト】

自然とアートを核に持続的に稼いで潤う上質な
観光地域づくり

具体的な取組

【観光資源の磨き上げ】

- ・新規旅行商品造成
- ・他DMOとの広域連携による施策実施
- ・利便性の高い販売方法の模索
- ・冬の商品のブラッシュアップ

【受入環境整備】

- ・受入体制の充実に向けた機運の醸成
- ・シビックプライド醸成の取組み
- ・観光人材の育成
- ・地域の人手不足解消に向けた取組み

【情報発信・プロモーション】

- ・各種ツールのデジタル化
- ・プロモーション活動の継続
- ・フィルムコミッション対応

【その他】

- ・収益事業の開拓
- ・人材育成の継続

